

番号	施設名	性別	年代	診断名	主なケアと指導の内容
1	〇〇大学病院 皮膚科病棟	男・ ⊗女	70 歳代	水疱製類天疱瘡	ステロイド治療中の副作用の出現の有無につき観察を行った。水疱およびびらん部の洗浄や外用処置を行いながら退院後の入浴・処置時に刺激を避ける必要性を伝えた。
2	〇〇大学病院 皮膚科病棟	⊗男・ 女	80 歳代	仙骨部褥瘡	体交時間をチームで周知した。洗浄・外用処置を行い、家族へ指導を行った。医師へ栄養指導の依頼を提案した。退院にむけ自宅のマットレスの手配・訪問看護を設定した。
3	〇〇皮膚科クリニック	男・ ⊗女	40 歳代	アトピー性皮膚炎	保湿剤の必要性とステロイド外用剤の塗布部位を確認しながら適正な外用量を指導した。悪化時だけではなく定期的に受診し、良い状態を維持する必要性を伝えた。
4	〇〇皮膚科クリニック	男・ ⊗女	10 歳代	顔面尋常性ざ瘡	泡の洗顔料で1日2回の洗顔を指導。外用剤の効果と刺激性を説明し、塗布部位を調整する点や異常を感じた際には早めに受診すること、継続が必要であることを指導した。
5	〇〇皮膚科クリニック	⊗男・ 女	40 歳代	尋常性乾癬	光線療法による副反応の有無を確認し、医師の指示の下、光線療法を実施。入浴時鱗屑を擦らないことやステロイド含有シャンプー剤は浴室に入る前に塗布することを指導した。
6	〇〇皮膚科クリニック	男・ ⊗女	20 歳代	前腕2度熱傷	受診前は消毒薬を使用していたことを聴取したため、消毒薬を中止し石けん洗浄するように指導し、被覆材は張り付かず通気性の良いものを選択するよう処置時に案内した。
7	〇〇皮膚科クリニック	⊗男・ 女	60 歳代	顔面帯状疱疹	水疱やびらんの接触により周囲に水痘として感染する可能性を指導した。疼痛の程度には個人差があるため、増強した際には早めに受診するように伝えた。
8	〇〇皮膚科クリニック	⊗男・ 女	4 か月	乳児湿疹	母はアトピー性皮膚炎ではないかと心配があったため、今後の経過をみるのが大切であることを再度説明した。外用剤の塗布量と部位を確認しながら処置を行った。
9	〇〇皮膚科クリニック	男・ ⊗女	50 歳代	手湿疹	生活の中でいつのタイミングで外用を行ったらよいかを共に考え指導した。食器用洗剤の濃度を確認することや可能な範囲での手袋の使用をすすめた。
10	〇〇皮膚科クリニック	⊗男・ 女	30 歳代	足白癬	家族と共用のバスマットを中止することを指導した。症状の見られない部位も含めて外用することや外用期間が根治に大切であることを説明し、次回再診の時期を指示した。

この名簿は見本として、10例のみを記載しています。実際の提出には20例すべてをご記入ください。